

■一般目標 (GIO)

一般医療ならびに歯科医療で使用される薬物の作用機序を理解するとともに、その生物学的背景を学ぶことによって、各種疾患に使用される薬物の作用機序を系統的に理解し、効果的かつ安全に薬物を使用できる歯科衛生士になるための知識と論理的思考力、考察力、判断力を身につける。

■到達目標 (SBOs)

- 1) 医薬品の分類を説明できる。
- 2) 薬理作用に関する機序、影響を与える要因、併用による効果、連用による影響を説明できる。
- 3) 薬物の体内動態について説明できる。
- 4) 薬物の有害作用について説明できる。
- 5) 薬物に関連する法律について説明できる。
- 6) 神経系や循環系、呼吸器系、肝臓、腎臓、消化管など各臓器に作用する薬物の作用を説明できる。
- 7) 感染症や腫瘍、免疫異常に対して用いる薬物の作用を説明できる。
- 8) 薬物相互作用について説明できる。

■教科書：1 歯科衛生学シリーズ

疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3 薬理学
(医歯薬出版)

2 プリント配付

■参考書：現代歯科薬理学 第7版 (医歯薬出版)

■授業時間：月曜日 10:00~10:50, 11:00~11:50

■オフィスアワー：随時メールにて対応

deya20263@g.nihon-u.ac.jp

大橋 一徳

■授業の方法：担当者は、薬理学分野における研究経験を有する。それを活かした、教科書内容とその背景の講義を行う。

■準備学習・講義項目について教科書や参考書を読み、出席すること。特
準備学習時間：に講義範囲に該当する生理学や生化学などの基礎知識を確認しておくことが望ましい。講義時間に相当する予習復習を行うこと。

■成績評価方法：平常試験1回分を30%、残り70%を定期試験により評価する。

■注意事項：必要に応じて資料を配布する。

基本A3サイズのPDFファイルを配布するので、各自対応してください。

■実務経験：大橋 一徳：神経科学分野の研究経験と歯学部での教育経験を生かして、疾患とそれに対する薬物の作用機序を複合的に理解できるよう解説します。

■予定表

授業日・担当者	講義項目	学修目的・到達目標
第1・2回 10月7日 大橋 一徳	1. 薬理学総論 (教) pp. 2-10	<ul style="list-style-type: none"> 薬物療法の種類を学ぶ。 薬理作用の基本形式と分類を学ぶ。 薬物の用量と反応について学ぶ。 薬物の作用機序について学ぶ。
第3・4回 10月21日 大橋 一徳	1. 薬理学総論 (教) pp. 11-21	<ul style="list-style-type: none"> 薬物の生体膜通過様式を学ぶ。 薬物動態（吸収・分布・代謝・排泄・薬物動態のパラメータ）について学ぶ。
第5・6回 10月28日 大橋 一徳	1. 薬理学総論 (教) pp. 22-36	<ul style="list-style-type: none"> 薬物の適用方法の種類と特徴について学ぶ。 バイオアベイラビリティについて理解する。 薬効に影響する因子と生体の感受性について学ぶ。 薬物の反復投与によって生じる、耐性、蓄積、依存について学ぶ。 薬物の併用の影響について学ぶ。
第7・8回 11月11日 大橋 一徳	1. 薬理学総論 (教) pp. 37-50	<ul style="list-style-type: none"> 薬物の副作用について学ぶ。 薬物投与における、妊婦、授乳婦、乳幼児、小児、高齢者の特徴を学ぶ。 服薬指導について学ぶ。
第9・10回 11月18日 大橋 一徳	1. 薬理学総論 (教) pp. 51-64	<ul style="list-style-type: none"> 薬物の取り扱いについて学ぶ。 処方せんについて学ぶ。 薬物を規制する主な法律について学ぶ。 医薬品の開発について学ぶ。
第11・12回 11月25日 大橋 一徳	(前半) 平常試験 (後半) 試験の解説	<ul style="list-style-type: none"> 薬理学総論にして選択問題 m または筆記問題により試験を行う。

授業日・担当者	講義項目	学修目的・到達目標
第13・14回 12月2日 大橋 一徳	2. 薬理学各論 1) 末梢神経に作用する薬物 (教) pp. 73-80	<ul style="list-style-type: none"> ・末梢神経の構造と機能について学ぶ。 ・自律神経系に作用する薬物について学ぶ。 ・筋弛緩薬の働きについて学ぶ。
第15・16回 12月9日 大橋 一徳	2. 薬理学各論 1) 中枢神経に作用する薬物 (教) pp. 81-92	<ul style="list-style-type: none"> ・全身麻酔薬，催眠薬，抗不安薬，抗てんかん薬，抗精神病薬，抗うつ薬，抗躁薬，中枢神経興奮薬，抗 Parkinson 病薬，アルツハイマー病治療薬について学ぶ。
第17・18回 12月16日 大橋 一徳	2. 薬理学各論 1) 循環器に作用する薬物 2) 腎臓に作用する薬物 (教) pp. 93-108	<ul style="list-style-type: none"> ・循環系に作用する薬物を学ぶ。 ・高血圧，不整脈，心不全，狭心症，脂質異常症の治療薬について学ぶ。 ・利尿薬について学ぶ。
第19・20回 12月23日 大橋 一徳	2. 薬理学各論 1) 呼吸器系に作用する薬物 2) 抗アレルギー薬 (教) pp. 121-122	<ul style="list-style-type: none"> ・気管支喘息治療薬について学ぶ。 ・抗アレルギー薬について学ぶ。
第21・22回 1月20日 大橋 一徳	2. 薬理学各論 1) ビタミン 2) 消化器に作用する薬物 3) 血液に作用する薬物 (教) pp. 66-68 pp. 109-117	<ul style="list-style-type: none"> ・主なビタミンの薬理作用について学ぶ。 ・消化性潰瘍治療薬，鎮痙薬について学ぶ。 ・止血機構について学ぶ。 ・局所性，全身性止血薬，抗血栓薬について学ぶ。
第23・24回 1月27日 大橋 一徳	2. 薬理学各論 1) ホルモン 2) 免疫と薬 3) 悪性腫瘍と薬 4) 代謝性疾患治療薬 (教) pp. 66-72 pp. 118-134	<ul style="list-style-type: none"> ・カルシウム代謝に関与するビタミンとホルモンについて学ぶ。 ・免疫増強薬と免疫抑制薬について学ぶ。 ・抗悪性腫瘍薬の作用機序と副作用について学ぶ。 ・糖尿病治療薬の働きを学ぶ。 ・骨粗鬆症治療薬の働きを学ぶ。

授業日・担当者	講義項目	学修目的・到達目標
第25・26回 1月29日 大橋 一徳	2. 薬理学各論 1) 炎症と薬 2) 痛みと薬 (教) pp. 135-149	<ul style="list-style-type: none"> ・ 炎症について理解を深める。 ・ ステロイド性抗炎症薬の作用と副作用について学ぶ。 ・ 非ステロイド性抗炎症薬の作用と副作用について学ぶ。 ・ 解熱鎮痛薬について学ぶ ・ 麻薬性鎮痛薬, 非麻薬性鎮痛薬, 麻薬拮抗薬について学ぶ。 ・ 神経障害性疼痛治療薬について学ぶ
第27・28回 2月4日 大橋 一徳	2. 薬理学各論 1) 局所麻酔薬 (教) pp. 150-158 2) 消毒薬 (教) pp. 170-180	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消毒薬の作用機序について学ぶ。 ・ 局所麻酔薬の作用機序, 影響を与える因子, 血管収縮薬を添加する目的について理解する。 ・ 局所麻酔薬の化学的構造に基づいた分類について学ぶ。 ・ 局所麻酔薬の適用法, 副作用について学ぶ。
第29・30回 2月10日 大橋 一徳	2. 薬理学各論 1) 抗感染症薬 (教) pp. 159-169	<ul style="list-style-type: none"> ・ 抗感染症薬の作用機序, 副作用について学ぶ。 ・ 主なペニシリン系, セフェム系, アミノグリコシド系, マクロライド系, テトラサイクリン系, ニューキノロン系抗菌薬, クロラムフェニコールについて学ぶ。